

IV-202

生活環境に対する認知構造の自由連想法による調査の地域比較

国立公害研 正会員 ○大井 紘

国立公害研 須賀伸介

京都産大 正会員 勝矢淳雄

筑波大 宮本定明 阿部治 中山和彦

§ 1 緒 言

生活の場を人々がいかなる意識の広がりの中で捉えているか、生活に係わることをどのようなまとまりとして認知しているかを明らかにするために、著者らは、連想法によるアンケート調査を行い解析を進めてきた。本研究では、従来行ってきたいくつかの地域における調査のうち、自由連想法によるものの結果を全体を通して比較検討する。

§ 2 自由連想調査法と解析法

自由連想調査としては、刺激語として「住みよさ」、「住みやすさ」を用いたものを本講演会で報告してきた¹⁻²⁾。また、「交通」、「近所つきあい」、「みどり」を刺激語に加えた4問式の自由連想調査も行った。これらの調査については、それぞれの調査の組ごとに、解析結果と考察とを報告している¹⁻⁵⁾。本報告ではこれらの結果のうち、「住みよさ」、「住みやすさ」を刺激語とするものの全体を見渡して比較検討する。

自由連想法で連想された、語、句、文のうち、句と文は単語に分解し、単語の集合として回答を扱う。得られた単語の集合について、連想頻度を調べるとともに2元クラスタリングを用いる。この方法は、連想語については共通した多くの回答者に連想される語が類似度が大であるとして、回答者については、同じ言葉を共通して多数連想する者同士は類似度が大としてクラスター分析する。単語の出現する近接関係を用いる近傍法による解析⁶⁾も行っているが、本稿ではこれには触れない。

§ 3 調査対象地

ここで比較検討するのは、次の6対象地についての解析結果である。それらは3組に分かれている。

- 第1組 ①茨城県石岡市、②東京都足立区花畑〔それぞれ小都市と大都市の住宅地区。後者は汚染のはなはだしい綾瀬川沿いにあり、前者より住居が密集し緑が乏しい。〕¹⁾³⁾
- 第2組 ③茨城県新治郡、④東京都北区豊島5丁目団地〔前者は地方都市に隣接する農村、後者は高層密集住宅〕²⁾⁴⁾
- 第3組 ⑤茨城県大子町、⑥東京都世田谷区深沢及び等々力〔前者は地方都市からも距離的、地形的に離れた山間地、後者は比較的良質とされる住宅地〕⁵⁾

ここでは、第3組のみの連想頻度順位を表1に、連想頻度10以上の語のクラスターを表2に示す。

§ 4 対象地域間の比較検討

第1組の2群の間では、連想頻度順位が10位までの語の間の移動はわずか1語であった。これに対し、第2組、第3組という都市住宅対農山村を対照したそれぞれ組の間では、かなりの差が認められる。第2組については、便利、交通、空気の語の頻度順位がほぼ同じであるのに対し、緑は③での順位が大きく下がる。第3組についても、便利、交通の順位は第2組とほぼ同じで、緑の順序は、ますます下がる。これは、いわゆる緑が充足されるほど緑への関心が下がるということによると見られる。いずれにしても、10位までに6群に共通して入る語は、便利、交通、環境、緑であり、住みやすさについての共通的な主要関心事がこれから分かる。

連想語のクラスターについては、どの群についても回答者の比較的多くから連想されるクラスター（主クラスター）が認められる。しかしながら、⑤については、他の5群の主クラスターが利便性と快適性との双方の意味を持つと見られるのと大きく異なり、快適性にかかわる意味合いが認められず、

交通の不便な過疎地の状況が支配的になったと解釈できよう。6群について共通して現れる語は、便利、交通、環境である。そして、静かが⑤に欠け、買い物が③、⑤に、緑が①、⑤に欠ける。6地区のなかで最も買い物の便の悪い③、⑤に買い物が欠けることは注目に値する。このことは、買い物以前の利便性が重要な問題になっていることによると解釈できよう。

主クラスターを連想する回答者の連想密度を観察すると、②、④、⑥において主クラスターの語が多く割合の回答者によって密度高く連想される傾向が認められ、住民の間での意識の均一化が都市住宅地内で進んでいることによるのではないかと見られる。

次に、家という語の属する連想語クラスターの他の語を検討しクラスターとしての意味を比較する。①では、同じクラスターの語は、家族、子供であって意味は「家族としての家」、②では、庭、きれい、で「物としての家」、③では、学校、近い、買い物、庭、広い、陽当りで、「生活の場」、④では、人間、関係、騒音、生活、住宅で「密集居住社会」、⑤では、大子町、山間地、地域、部落、家族、人、町、心で、「自分自身から地域への広がり」、⑥では、部屋の1語で「居住条件」である。③、⑤では、家の内から外への広がりが見られ、近隣社会の中で家を捉えている。④、⑥は、家即住居である。①、②では家が家の中で完結している点で共通だが、前者は家族、後者は家屋である。

最後に、農村、山村である③、⑤に「住めば都」からきた、都という語のみからなるクラスターがあり、その語を連想する回答者は、他の語を殆ど連想しないということに注意したい。

§ 5 結 言

自由連想調査結果を全体的に見渡して比較したところ、農山村と都市住宅地との間の意識の対照など、生活の場に対する住民意

識の構造が明らかになった。

文 献

- 1) 大井、勝矢、宮本、阿部、中山：第40回本講演会概要集第2部、889/890(1985)
- 2) 大井、勝矢、宮本、阿部、須賀、中山：第41回本講演会概要集第4部、153/154(1986)
- 3) 大井、勝矢、宮本、阿部、中山：「環境科学」研究報告集B295-R40-7、55/73(1987)
- 4) 大井、勝矢、宮本、阿部、須賀、中山：ibid.、74/90
- 5) ibid.、91/117
- 6) 須賀、宮本、大井、阿部、勝矢、中山：第5回知識工学シンポジウム資料、117/122(1987)

表1 「住みよさ」、「住みさすさ」に対する連想頻度順位

順 位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
大 子	便利 86	環境 81	交通 69	空気 51	生活 50	人 49	水 41	家 41	緑 39	きれ い 38
世田谷	便利 158	緑 106	交通 103	環境 102	静か 91	広い 76	近い 70	家 55	買い物 54	庭 53

語の下の数字は頻度

表2 連想語のクラスター〔大子：上、世田谷：下〕
〈縦線はクラスターの境界〉

関人便交環自生 係間利通境然活	川山 水 気	空 水 い	静 緑 か	公人 害情	道整 路備	近 所	学 校	近 家	日 当り
--------------------	--------------	-------------	-------------	----------	----------	--------	--------	--------	---------

→

健 康	気 候	大子 町	山間 地	部 落	家 族	人 心	買 物	豊 か	若 者	勤 労	老 人	都 会	明 な	広 い	都
--------	--------	---------	---------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---

→

暖 かい	涼 しい	公 害	清 潔	明 る	快 適	豊 か	物 価	安 い	個 人	生 活	自 然	ゆ と	閑 静	隣 人	安 全	子 供	整 備	公 共	施 設	地 域	都 市	下 道	完 備	住 居	治 安	建 築	住 宅	商 店	機 能
---------	---------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

→

家 族	通 勤	間 隙	空 間	空 間	き れ い	空 気	近 所	つ き	騒 音	人 心	部 屋	便 利	交 通	静 か	買 物	環 境	庭 木	日 当り	風 通し	駅 街	商 店	病 院	学 校	公 園	近 道
--------	--------	--------	--------	--------	-------------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---------	---------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

→